

京都市中体連におけるサッカーの指導の実態に関する研究

谷口 祐一郎 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 松田 保

キーワード：京都市 中体連サッカー 指導

1. 緒言

現在、日本サッカー協会のあらゆる取り組みにより、中学年代のレベルは年々向上している。今年度も、第41回全国中学校サッカー大会が山口県で開催された。全国の中体連に所属するチームの日本一を決める大会である。今年は、各地域の予選を勝ち抜いた32チームが参加した。この大会は、静岡県代表の常葉学園橋中学校が優勝した。

レベルの高い大会であったが、京都市の中学校は地域予選で敗退して参加していない現状である。過去10大会で京都市の中学校が全国大会に参加したのは、わずか3大会である。京都市の中学校は全国と比較レベルが落ちると考えられる。京都市のチームが全国中学校サッカー大会などの全国大会で良い成績を収められないのは、指導に問題があると考えられる。これから、京都市のチームが良い成績を収め、良い選手を輩出するには、現在の京都市の指導の実態を把握することが重要であると考えた。

そこで本研究では、京都市の中学校のサッカー指導者に実態調査を行い、京都市の中学校サッカーの現状を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

①京都市の中学校サッカー部の顧問に対してアンケート・インタビュー調査による指導の実態の調査を行う。

②平成22年度 京都市中学校秋季大会(新戦)サッカーの部 準決勝・決勝のゲーム分析による、京都市の中体連のレベルの実態を調査する。

3. 結果

①京都市の指導者の74%が20代、30代の若い指導者で占められており、指導経験が少ない指導者が多くいた。

②指導に対しては積極的な指導者が多く、週5回以上指導している69%であった。

③指導において重点にしていることとして「トラップ」、「パス」、「ドリブル」といった「止める・蹴る・運ぶ」の基本技術、それに伴う「有効な視野の確保」が特に強調されて指導されていたが、実際のゲームでは、その基本技術が身につけておらずボールを簡単に失っていた。あるチームに関しては、ボールを自ら失うような攻撃に意図の感じられないチームもあり、練習で強調している基本技術をゲームで出そうとしていなかった。

4. まとめ

京都市中体連のサッカー部の指導環境は比較的整った環境であった。しかし、実際の試合では指導で強調している基本技術が身につけていなかった。京都市のチームが良い成績を収め、良い選手を輩出するには基本技術の徹底が必要である。

5. 参考文献

岩手県における中学校サッカー指導者の指導の実態 (1993)

Technical news vol. 39 財団法人日本サッカー協会

JFA 日本サッカー協会技術委員会 U-14指導指針2010